



卒業生 幡多ゼミ生が鉢の鉢を持つ



挿し木作業

市館の幡多ゼミナール館で記念の挿し木イベントが取り組みました。

この場には1988年にすずさんを訪ね、バラの挿し木の交流のきっかけを作った幡多高校生ゼミナールの卒業生も参加。ゼミ館の庭に鉢にバラを挿し、40株が参加者に手渡されました。

山下正寿さんは「バラの挿し木と紙芝居『ビキニの海のねがい』を関連付け、学校や子どもたちに広げたい」と話している。

「ビキニ事件で被災した第五福竜丸の最初の犠牲者・久保山愛吉さんと妻すずさんが静岡県焼津市の自宅で育て、32年前に高知県内に株分けされたバラの木が、現在も幡多地域を中心に残っています。この「愛吉・すずのバラ」の挿し木を県内外に広げたい」と、植

ビキニ被災事件 終わっていない

高知・宿毛でイベント

「ビキニ事件はまだ終わっていない」として、ビキニ労働訴訟を支援する太平洋核被災支援センター（高知）は6日、「愛吉・すずのバラ」を運動のシンボルとして全国に広げるイベントを高知県宿毛市でおこないました。

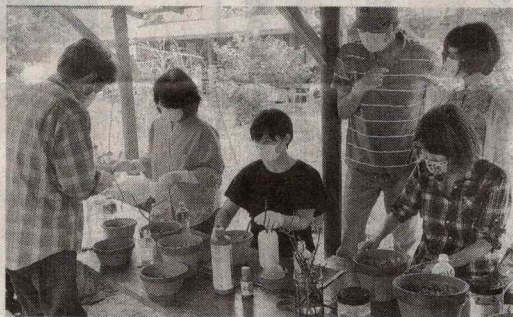
「愛吉・すずのバラ」とは、ビキニ環礁での米国の水爆実験（1954年）に遭遇したマグロ漁船・第五福竜丸の乗組員で、最初の犠牲者となった久保山愛吉さんと妻のすずさんが愛したものです。

愛吉・すずのバラ 広げる

久保山愛吉さんのバラの挿し木を全国に送ろうと準備する人たち。6日、高知県宿毛市

米国のビキニ水爆実験で被災した日本のマグロ船は第五福竜丸以外にも900隻以上にのぼります。高知県内に住むマグロ漁船乗組員や遺族が全国健康保険協会に船員保険（労災認定）の適用を求め、3月30日に高知地裁に提訴してたたかっています。

イベントは支援センター事務局長で、幡多高校生ゼミナール元顧問の山下正寿さんが司会進行し、幡多ゼミ館の庭でおこなわれました。幡多ゼミ



卒業生の近藤りかさんが1988年の「平和の旅」で静岡・焼津市のすずさん宅を訪問し、バラをもらった思い出を

語りました。卒業生の橋崎律子さんは、「昨年の日本母親大会で静岡にバラの挿し木を持参し里帰りができたことが静岡で話題になりました。多くの人に喜んでいただき、バラの持つ力を知らされました」と話しました。

参加者は、バラに込められた核実験被害と核兵器廃絶の思いを次世代の子どもたちに届けたいと、40本の挿し木を持ち帰りました。

今後、県内外の支援者にビキニ労働裁判の学習会や紙芝居「ビキニの海のねがい」上演会などで手渡し、挿し木の数を広げて、学校で子どもたちも参加できるようにする予定です。

被災船部品など展示

幡多ゼミ館には、ビキニ被災船「住吉丸」の船体部品と看板などが展示されています。

幡多ゼミが1989年に土佐清水市の旭造船所に放置されていた「住吉丸」をガイガー計数器で測定すると、機関室の油のついた木片から約300カウントの放射能が検出されました。

「住吉丸」は沖縄近海で58年まで操業していたマグロ船です。参加者は展示をみながら「多くのマグロ船乗組員が被ばくしたビキニ事件をいまに伝える木船だ」と裁判にかける意気込みなども語り合いました。